

こぼれ話1

藤治とまんじゅう とうじとまんげん

江戸時代の後期、高幡村(現在の高幡周辺)に平藤治という若者がいました。そのころの高幡村は、飢饉で年貢を納められず、たくさんの村人が困っていました。藤治は、村人を何とか助けようと、名主たちに、年貢を少なくしてもらおうよう訴えましたが、それをこころよく思わない名主たちによって無実の罪で捕えられてしまいました。

やがて、藤治は無実であることが分かり、村へ帰ってくることになりましたが、仕返しを恐れた人々によって毒まんじゅうを食べさせられ、殺されてしまいました。

村人たちのためにがんばったのに、命を落としてしまった藤治のことをあわれに思った村人たちは、小さな社を建て、藤治の命日の四月十七日にお祭りをするようになりました。この時、子どもたちにまんじゅうが配られるようになり、そのならわしは今でも受け継がれています。



藤治権現社 (高幡323)